



# まなび通信

## 令和5年度 主体性をはぐくみ、つなぐ研修会

令和5年12月15日(金)に中丹地域の園の5歳児担任、小学校1年生担任、中丹地域保幼小連携推進委員の皆様にお集まりいただき、本研修会を行いました。テーマは、「**幼小接続**」です。

関西国際大学 准教授 椋田 善之 様には、「保幼小連携・接続はなぜ必要か」「園ではどんな学びをしているのか」等について、園や学校の実践例を多く取り上げながら御講演いただきました。

また研究発表では、中丹プロジェクト 21 小学校生活科授業力向上プロジェクトアドバイザー 綾部市立東八田小学校 尾松亜紀教諭から「幼児期の学びをつなぐ生活科の授業づくり」と題して、1年生生活科の授業実践を中心に発表していただきました。その後の研究協議では、幼児期の学びが生かされ、子どもの主体性が発揮される生活科の授業の在り方について、園・小学校の教員が一緒に考えました。

講演や研究発表・研究協議を通して、保幼小連携・接続で何をつなぐのか、そのために子どもに関わる大人ができることは何か、について学び合いました。

### 関西国際大学

#### 准教授 椋田 善之様



#### 「遊び込める子は学び込める」

子どもの主体的な遊びは、子どもの多様な発達に有効です。またストレスを低減し、喜びや誇り、自信を育てます。

#### 保幼小の連携・接続はなぜ必要？

子どもの発達には**順序性**があり、**連続的**です。保幼小の連携・接続を通して、幼児教育と小学校教育との間にある**学びの非連続性を解消**することが大切です。

#### 保幼小の連携・接続を進めるためには…

「できない」ではなく、「**できること**」を探る。「やらなければ」ではなく、まずは「**面白そう・やってみよう**」から始める。やってみると**効果は必ず見えてきます**。これからは、園と学校がつながり、お互いの工夫を共有し、よりよい子どもの姿を一緒に考えていくことが一層大切になっていきます。

### 中丹プロジェクト21 研究発表より

#### 小学校生活科授業力向上プロジェクト

#### アドバイザー 尾松 亜紀 教諭

#### 主体性・思考力を育む授業展開

##### 1年生「きれいにさいてね」

児童に「どんなアサガオを育てたいのか」という思いや願いを持たせ、置く場所や水やりの回数、肥料や間引き等、**必要な世話の仕方を自分で考えながら育てる展開**にしました。「こんなアサガオを育てたい」という思いを持ち世話をする中で、児童の**思考力や主体性を育みます**。

#### 児童の主体性を引き出す「環境の設定」

##### 1年生「たのしいあきいっぱい」

子どもがいつでも手にできる場所にコーナーを設置しました。



材料や道具コーナー、図鑑コーナー

#### 児童の主体性を引き出す「教師の支援・手立て」

教師は、「どうしたらいいと思う?」「何が(どこが)問題なのかな?」など、**思考を促したり課題を焦点化したりする言葉かけを意識して行うことが大切**です。

### 研究協議

学校の先生方と園の先生方で、1年生3学期の生活科「ふゆをたのしむ」の授業について、子どもの主体性を引き出すにはどんな手立てをすればよいか、「**環境の設定**」「**教師の支援・手立て**」の視点で考えました。

園の先生から、子どもが園で経験している「冬の遊び」の様子を具体的に聞かせていただき、小学校の先生にとっては、その学びや育ちを生活科の授業でどう生かしていくか、どう発展させていくかを考える、よい機会となりました。



#### 【参加者の振り返りより】

◎ アプローチ期に「遊び込む」ことが「学び込む」ことにつながると分かった。自ら課題や取り組みたいことを見つけ、その実現に向けて努力し続けることは、子どもから大人になるまで、生涯にわたって大切だと感じた。そして、その「遊び込む」体験を、より価値あるものへと昇華させるために、どのように関わり、促すための手立てを持つのが私たちに求められていると感じた。(1年生担任)

◎ 学校の先生方と話ができて、学校の様子や授業の様子がよく分かった。園でも振り返りを行っているが、思ったことを発言したり人の話を聞いたりすることが学校での授業内容につながっていることも分かり、さらに園でも経験を積んでいきたいと思った。(5歳児担任)